

第 10 期

事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

自 令和 3 年 4 月 1 日
至 令和 4 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 復 康 会

令和3年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	1
III. 理事会・評議員会の開催	3
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	5
[2] 精神保健相談・健康相談活動	5
[3] 研究発表	6
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	8
[鷹岡病院グループ]	14
[沼津リハビリテーション病院グループ]	17
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	19
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	23
[2] 嘱託医の受託	24
[3] 実習病院の受託	25
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	26
[5] 関連諸団体の活動	26
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	27
[7] 受託事業	29
VIII. 職員配置状況	30

I-III 事業報告

I. 今期の概況

令和3（2021）年度は、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン）の世界的な感染拡大に伴い、静岡県内にも、一時期蔓延防止等重点措置が適用された。日々の診療活動はもちろん、訪問看護や社会復帰事業部の様々な支援活動にもコロナ感染対策を講じる必要があり、支障をきたすこともあった。法人職員も少人数ではあるが家庭内感染者や濃厚接触者が発生し、自宅待機を余儀なくされる状況があった。幸い利用者の皆さんには、ご迷惑をおかけすることもなく、クラスター発生もなく大事に至らなかったことは、徹底した感染対策によるものと考えている。

今期法人全体の最重要課題であった「経営黒字化のための収益力の強化、事業計画の達成」は、6期振りの黒字達成となった。今期の黒字化の大きな要因は、本部からも積極的に、経営情報を提供し、支援した鷹岡病院の業績回復によるものではあるが、法人全職員が、それぞれの組織の事業計画達成を念頭に、一致協力して努力した結果であると考え、すべての職員に心から感謝したい。

事業運営に関しては、専門医療の質の確保、多様性への対応（児童思春期精神科医療、認知症疾患医療、摂食障害医療、発達障害医療への取り組み、指定難病神経疾患診療等々）、行動制限最小化への取り組みも完全ではないが着実に実行に移されている。

精神科救急医療における常時対応型施設としての機能及び24時間医療相談窓口事業も例年どおり運営され地域に貢献してきた。令和3年7月の熱海市伊豆山土石流災害に際しては、あたま中央クリニックとサポートセンターいとうが被災地域に立地し、幸い直接の被害はなかった。災害支援活動として、令和3年度より県の災害拠点精神科病院の指定を受けた沼津中央病院が県の災害支援活動における主要な役割を担い、同院のDPAT先遣隊が発災直後から支援活動に参画した。その他にも一部の法人職員が専門職の立場で被災者支援のため出動し地域に大いに貢献した。

専門医養成のための基幹プログラムは、毎年複数名の医師を受け入れ、他の医療従事者育成のための実習生受け入れも着実に機能している。

今後は、組織に必要な人材の確保と育成、適正な人員配置を検討していくこと、働き方改革関連法実施に向けての取り組みを検討していくことも重要な課題である。

重点目標

- (1) 経営黒字化のための収益力の強化、事業計画の達成
→前述のように黒字化は達成
- (2) 医療の質の向上、特に行動制限の最小化
→質向上は引き続き努力していく。
→行動制限最小化は一部達成されたが、まだ拘束ゼロは未達
- (3) 医療専門職の確保、人材育成、適正な人材配置、職員の活力が生まれる職場環境の構築
→組織としての継続的な努力が必要

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業

・沼津中央病院

県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応型施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に運用し、本年も県下最大の診療数、相談数を計上しその活動は十分であった。また、長期入院者が地域で生活するための基盤活用（セジュール新大橋、法人内グループホームの有効活用）は、セジュール新大橋の入居が100%を達成し、法人内グループの活用も昨年より増加した。さらに、ピアサポーターが様々な場面で活躍できる体制の整備について、

非常勤1名を採用し、大幅な飛躍の年となった。

・鷹岡病院

県の精神科救急医療体制整備事業にておける常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）の継続については、例年通り活発に活動した。

認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB等も交えて情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。

・沼津リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。また、療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。

② 障害福祉サービス事業

・社会復帰施設

障害種別を問わず、各事業所市町を中心に障害者の地域での暮らしに関する相談、住居、就労等に関する支援を広域的に実施。また、地域行事への参加や当事者活動への協力、ボランティアの受け入れ等、普及啓発活動を通して、地域に開かれた障害福祉サービス事業所運営を行った。

③ 介護サービス事業

・通所リハビリテーション

感染対策に配慮しながら、サービス提供を継続した。

・訪問看護ステーション

感染防止に細心の注意を払いながら地域における関係機関との連携に努め、自宅での看取りなどの希望にも可能な限り対応した。5人の看護職員により24時間緊急対応を継続した。また、今年度小児の訪問も実施した。

④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業

・沼津中央病院

精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成では、新たに1名を採用して研修開始、別の1名の転籍を受け入れ総勢4名を育成中。実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、事務職などについて例年通り行うことができた。

・鷹岡病院

研修医（初期、専門研修2名）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受入れを行った。

・沼津リハビリテーション病院

大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成に協力した。

⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業

・沼津中央病院

専門上位資格の取得（可能な限り指定医、専門医取得を目指す）に関し、出願中の2名が指定医として指定された。種々の厚生労働科学研究に協力し、個々の学術活動も継続された。

・鷹岡病院

摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。

・沼津リハビリテーション病院

前年度からの静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において講演会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

⑥ 無料相談、助言事業

・院内無料精神保健相談

沼津中央病院、大手町クリニック、あたま中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。

・助言事業

静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバ

イザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

- ・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な委員を担うと共に、地域自立支援協議会の運営に協力した。
- ・社会復帰事業部では、沼津市、伊豆の国市からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

- ・特別の療養環境の提供に関する事業
より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。
- ・日常の支援に関する事業
入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。
- ・不動産賃貸業
病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

- ・福利厚生事業
ウイスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、令和3年度はコロナの影響もあり、利用者はいなかった。

Ⅲ. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第42回 理事会	R3.5.27	理事 8名 監事 2名	1. 令和2年度事業報告(案)について 2. 令和2年度決算報告(案)について 3. 賞与支給について 4. 理事候補者の選出について 5. 定時評議員会の招集(案)について 報告事項 ① 3病院の3期経営計数グラフについて ② 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
第18回 評議員会	R3.6.24	評議員 7名 監事 2名	1. 令和2年度事業報告(案)について 2. 令和2年度決算報告(案)について 3. 理事の選任について
第43回 理事会	R3.6.24	理事 7名 監事 2名	1. 代表理事(常務理事)の選定について 2. 事務局長就任について
第44回 理事会	R3.12.16	理事 9名 監事 2名	1. 就業規則の改定について 2. 育児・介護休業等に関する規程の改定について 3. 経理規程の改定について 4. 給与規程の改定について 5. 育英資金貸与制度の改定について

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
			報告事項 ① 理事長常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 ② 令和3年9月期の予算実績管理表 業績推移について
第45回 理事会	R4.3.24	理事 9名 監事 2名	1. 令和3年度第1次補正予算（案）について 2. 令和3年度徴収不能損失について 3. 令和4年度事業計画（案）について 4. 令和4年度予算（案）について 5. 資産運用規程の改定及び資産運用ガイドラインの制定について 6. 永年勤続褒賞旅行規程の改定について 7. 非常勤職員給与規程の改定について 8. 経理規程の改定について 9. 給与規程及び退職金規程の改定について 報告事項 ① 令和3年度期末業績予想について ② 資産運用報告について

以上

IV. 活動報告

〔1〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	20,735	326	0	21,061	164,413	
外来	延人数	1,210	13,989	0	15,199	118,553	
計		21,945	14,315	0	36,260	282,966	12.8%

〔2〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼津中央病院	年1回	精神保健福祉総合相談	奥 義 起	静岡県東部健康福祉センター
	年1回	〃	野口 信彦	〃
	年1回	〃	戸井田 真木	〃
	年1回	〃	佐々木洋介	静岡県熱海健康福祉センター
鷹岡病院	年12回	富士市職員メンタルヘルス相談	石田多嘉子	富士市役所
	年2回	精神保健福祉総合相談	高 木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年2回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	年2回	保護者カウンセリング事業	〃	富士児童相談所
	随 時	教職員面接指導	〃	富士市教育委員会
	随 時	健康相談・面接指導	〃	富士地域産業保健センター
	年8回	ストレス相談	久保伸年	富士市保健部健康対策課
	年6回	〃	鈴木順一	〃
	年11回	県立職業訓練校精神保健福祉相談	丸山祐貴子	静岡県経済産業部
	年2回	〃	山口雅弘	〃
随 時	犯罪被害者面接相談	久保伸年	静岡被害者支援センター	
社会復帰事業部	年6回	伊豆市サテライト相談会	池田友美	伊豆市
	年12回	沼津市障害者専門相談会	内藤治子	沼津市社会福祉協議会

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼津中央病院		45	60	39	42	42	37	59	50	42	41	38	10	505
大手町クリニック		538	603	556	719	692	606	717	674	636	624	549	643	7,557
あたま中央クリニック		110	81	84	73	64	73	85	69	88	92	98	85	1,002
鷹岡病院		48	65	81	85	56	43	38	15	43	61	33	39	607
富士メンタルクリニック		64	57	67	71	78	75	87	68	79	86	94	125	951

[3] 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 杉山直也：精神科医療のフルラインアップ化. シンポジウム b05 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神科診療所の役割」. 日本精神神経科診療所協会第 27 回（通算 47 回）学術研究会, 2021. 9. 12, WEB 開催
2. 八田耕太郎, 片山成仁, 石塚卓也, 須藤康彦, 中村満, 長谷川花, 藤田潔, 森川文淑, 今井淳司, 三澤史斉, 渡邊治夫, 島田達洋, 尾崎茂, 杉山直也：救急入院した統合失調症 1012 例における抗精神病薬のリアルワールドでの有効性：1 年間の前向き追跡研究. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会合同年会, 2021. 7. 14-16, 京都
3. 内田千恵, 杉山直也, 長谷川花, 梶浦裕治, 宇留嶋祥枝, 山田信昭, 牛島一成, 内堀来未子, 石切山涼子：精神科集中ケア期における早期作業療法の効果と意義～プログラム名：Picot「ピコット」の実践報告～. 第 29 回日本精神科救急学会学術総会, 2021. 10. 23. 福島（WEB 開催）
4. 塩澤拓亮, 兼行浩史, 藤井千代, 平田豊明, 野田寿恵, 杉山直也：精神科救急医療ニーズの多様化に向けた医療の質向上と医療提供体制の最適化に資する研究. 第 29 回日本精神科救急学会学術総会, 2021. 10. 24. 福島（WEB 開催）
5. 日野耕介, 橋本聡, 井上幸代, 兼久雅之, 五明佐也香, 河寫讓, 北元健, 来住由樹, 庄野昌弘, 杉山直也：身体合併精神科症例の転院調整に関わる治療連携連絡票の妥当性と実現性. 第 29 回日本精神科救急学会学術総会, 2021. 10. 24. 福島（WEB 開催）

鷹岡病院

1. 小山隆太, 川島茉己：病棟再編からみえてきたこと～支援の「断続」「滞り」が発生しない仕組みづくり～. 第 20 回日本精神保健福祉士学会, 2021. 9. 10

② 研究論文・総説・著書発表

沼津中央病院

1. 杉山直也：再発・再燃における治療のストラテジー. 統合失調症治療の新たなストラテジー：第 2 版, 先端医学社, 2021, 東京
2. 杉山直也, 長谷川花, 梶浦裕治, 宇留嶋祥枝, 山田信昭, 牛島一成, 内田千恵, 内堀来未子, 石切山涼子：精神科集中ケア期における早期作業療法の効果と意義～プログラム名：Picot「ピコット」の実践報告～. 精神医学, 63 (12), 1863-1871, 2021 会総合研究所
3. 杉山直也：精神科救急学会の立場から精神科救急医療体制整備に係るワーキンググループを考える. 特集医療から見た精神障害にも対応した地域包括ケアシステム, 日精協誌 40 (2), 94-100, 2021
4. 杉山直也：精神科医療のフルラインアップ化について～高規格病棟から地域ケアへのシームレスな医療提供体制の構想～シンポジウム 2. 精神科医療と高規格病棟～現状とあり方, その役割について, 精神科救急, 24, 20-25, 2021
5. Taishiro Kishimoto, Shotaro Kinoshita, Shogyoku Bun, Yasunori Sato, Momoko Kitazawa, Toshiaki Kikuchi, Mitsuhiro Sado, Akihiro Takamiya, Masaru Mimura, Takashi Nakamae, Yoshinari Abe, Tetsufumi Kanazawa, Yasuo Kawabata, Hiroaki Tomita, Koichi Abe, Akitoyo Hishimoto, Takeshi Asami, Akira Suda, Yoshinori Watanabe, Toru Amagai, Kei Sakuma, Hisashi Kida, Michitaka Funayama, Hiroshi Kimura, Aiko Sato, Shuichiro Fujiwara, Kiichiro Nagao, Naoya Sugiyama, Maki Takamiya, Hideyuki

Kodama, Takaharu Azekawa, On Behalf of the J-PROTECT Collaborators Japanese project for telepsychiatry evaluation during COVID-19: Treatment comparison trial (J-PROTECT): Rationale, design, and methodology. Contemporary Clinical Trials 111, 2021, 106596

6. 杉山直也：保健所との連携と協働. 特集 行政や様々な協働—円滑な連携と関係構築のために—. 精神科治療学 36 (7) 号, 831-834, 2021
7. 杉山直也：わが国における精神科救急医療体制の現状. 特集 I 精神科救急医療体制, 39(2), 精神科, 125-131, 2021
8. 橋本聡, 日野耕介, 井上幸代, 兼久雅之, 河寫讓, 北元健, 五明佐也香, 庄野昌博, 杉山直也, 三宅康史, 山下建昭：一般救急医療と精神科救急医療の連携. 特集 I 精神科救急医療体制, 39(2), 精神科, 177-181, 2021

鷹岡病院

1. 水野拓二・小山隆太・川島菜己：PSW の人材育成, 日本精神科病院協会雑誌, P53～P58

以上

V. 医療活動

[沼津中央病院グループ]

1. 概要

令和3年度も、COVID-19のパンデミックに翻弄された一年であった。沼津中央病院グループでは、現行の第4次中長期計画（平成30（2018）年～令和5（2023）年3月）の4年目を修了し、残すところあと1年、最終年を迎えることとなった。4つの重点目標のうち、3. 地域に責任を持つ、について特に意識して日々の業務に取り組むよう組織を強化してきたところ、1. 人材の育成と対応力の強化では職員一人一人が技量を向上させ、安全かつ良質な業務を実現し、2. 医療サービス向上につながった。令和4年度開始時には多くの新規入職者人材を得ることができ、働き方改革への準備も進んだ。結果的には経営成果も得られ、4. 時代に対応できる経営戦略も達成した。

トピックスとして、令和3年7月3日、熱海市の伊豆山土石流災害では、熱海市に「あたま中央クリニック」を展開する当グループにとって、被災者立場を経験すると同時に、沼津中央病院が県からの災害拠点精神科病院の指定を受けた直後で、県の要請を受け、発災後早期にDPAT先遣隊として複数回の出勤を果たし、県内災害支援活動の主力の一躍を担う役割を果たした。沼津中央病院では、救急入院料病棟での早期作業療法PICOTを開始し、様々な成果とともに論文化を行った。また、院長の強いリーダーシップの下身体拘束ゼロプロジェクトを立ち上げ、劇的な組織変化を成した。2病棟看護師による新型コロナウイルス感染症に対するアクションカードの活用の試みは、第29回日本精神科救急学会において学会奨励賞を受賞した。

運営方針

「地域のトップランナーとして、自立促進のケア理念に立脚し、包括的で良質な医療サービスを提供するとともに、時代の要請に応えるべく、優良な医療・保健・福祉人材を育成し、機能的で美しく、魅力的で力強くかつ謙虚で親身な組織づくりを追求する。」

重点目標

1. 人材の育成と対応力の強化

- 1) 活気があり、雰囲気良く、業務経験機会があり、指導体制が整い、労働条件が良好な職場を実現し、好人材を引き寄せる魅力ある病院を目指す。
- 2) 働き方改革の中で、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- 3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境を実現する。
- 4) 職域に応じて、各個人が標準化されたスキルを体得し、自ら専門性を高め、その特性長所を活かすとともに、特性課題の克服にもつながるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

2. 医療サービス向上

- 1) 地域生活を見据えたケア提供をめざし、切れ目のない包括的なサービス体制を構築する。
- 2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の救急医療サービスを継続的に提供する。
- 3) あくまで自立促進に立脚し、当事者の権利と可能性を追求した治療理念を基本にケアを提供する。
- 4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、試行や検証等の専門研究的視点を重視し、より確かなエビデンスに基づいたサービスの提供を目指す。

3. 地域に責任を持つ

- 1) 静岡県東部の精神科医療におけるトップランナーの自覚を保ち、気概と責任感を持って当事者サ

ービスに従事する。

2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

4. 時代に対応できる経営戦略

- 1) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的な病院経営を実現する。
- 2) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念をもって取り組む。
- 3) 目標達成のための必要業務数値を各従事者個人が明確に意識し、ともに協力して無理なく達成できるよう準備し、組織によって取り組む。

● 事業所ごとの活動

1. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ①管理者 杉山直也
- ②病床数 270床
- ③所在地 沼津市中瀬町24番1号 TEL055-931-4100(代)
- ④診療科 精神科・心療内科
- ⑤主な届け出受理事等：精神科救急入院料Ⅰ、精神科療養病棟入院料、精神病棟入院基本料15:1、看護補助加算1、精神科ショートケア(大規模)、精神科デイケア(大規模)、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、日本医療機能評価機構認定(機能種別版評価項目3rdG:Ver2.0)

(2) 医療活動

(ア) 法人内外連携による地域包括ケアサービス

- ・精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談(指定)の継続については、例年通り活発に運用し、本年も県下最大の診療数、相談数を計上した。
- ・長期入院者が地域で生活できるための基盤活用(セジュール新大橋、法人内グループホームの有効活用)は、セジュール新大橋の入居が100%を達成し、法人内グループの活用も昨年より増加した。
- ・地方公共団体による退院後支援への対応と連携強化は、8件の計画を新規に開始し、順調に推移している。
- ・ピアサポーターが様々な場面で活躍できる体制の整備について、非常勤1名を採用し、大幅な飛躍の年となった。
- ・外来対応の充実(再来の目標数値の達成維持と適正な臨床検査の実施)については、診療数、検査数ともに未達であり、課題を残した。
- ・訪問看護活動の充実としては、退院前活動、ステーションとの連携において十分に充実した活動を行った。

(イ) 多様性への対応

- ・児童思春期精神科診療(浜松医科大学、横浜市立大学との連携)の定着について、十分な定着を得た。
- ・圏域内総合診療(圏域内地域支援病院等との診療連携 医療連携室機能の発揮)の推進としては、静岡医療センター、沼津市立病院等と良好に連携し、連携室機能も充実している。
- ・治療プログラ(ぬま〜ぷ、リワーク、摂食障害、心理教育、認知機能リハビリテーション(検討)、協働意思決定(SDM: Shared Decision Making)、フリートークの会(ピア活動)の推進について

は、一部未実施のプログラムがあるが、概ね達成できた。

- ・クロザリルの活用は、本年度前期だけで新たに3名の新規導入を行った。
- ・修正型電気痙攣療法（m-ECT）の運用については、ほぼ常時十分な状況にある。
- ・行動制限最小化のためのコアストラテジー実践と身体拘束ゼロ化については、身体拘束ゼロ化をスペシャルプロジェクトに位置付け、院長の強いリーダーシップの下、劇的な組織変化を成し遂げた。
- ・精神療法の充実を目指し、件数データを活用する取り組みを行った。
- ・薬剤管理指導の充実は例年通り行っている。
- ・栄養指導の推進は、件数増加を目指したものの、目標達成に至っていない。
- ・準急性期（3～12か月）アセスメント手順の確立については未着手であり、次年度以降に取り組みたい。
- ・LAIの活用は、昨年同時期と比較し、いずれの薬剤も増加しており、目標を達成している。
- ・急性期パスの導入は、案までを作成したが、未だ導入には至っていない。
- ・災害派遣精神医療チーム（DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team）の活動と防災委員会との連携について、精神科災害拠点病院の指定に伴い先遣隊を登録し、委員会との連携を行った。
- ・災害拠点精神科病院の体制整備について、当初計画通り静岡県指定を受けた。
- ・高齢化をみすえた身体管理技術の維持・向上に関し、高齢者が増加しつつある日々の診療を通じて着実に充実している。
- ・デイケア、OT、心理による発達障害への対応の充実は、ニーズの増加に伴い、必然的に充実している。

(ウ) 確かなエビデンスに基づく業務実践

- ・厚生労働科学研究への協力は1件の代表研究、2件の分担研究を主導したほか、種々の調査依頼に協力した。
- ・職域ごと（医師、薬剤師、看護師、精神保健福祉士、医事等）の研究促進（外部での実践報告）について、医師、看護師、作業療法士、事務が学会発表を行った。
- ・薬剤使用（処方）状況の把握と適正処方の推進（ポリファーマシー加算の件数増加）について、把握は行ったが、適正処方課題であり、加算件数の増加もない。
- ・レジストリの活用に関する外部発表を目指すこととし、学術論文（和紙）1件が受理された（12月掲載予定）。

(エ) 人材育成と強化、活用

- ・クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク）の標準化について新人100%、全体で90%履修達成を目指したがディエスカレーション研修は90.1%、自殺ハイリスク研修は82.2%の履修率であった。新人については、どちらも100%履修となっている。
- ・医療法、診療報酬に基づく義務研修（リスク、感染、行動制限最小化等）の開催と参加率向上について、Web活用により参加率が増加した。
- ・専門上位資格の取得（可能な限り指定医、専門医取得を目指す）に関し、出願中の2名が指定医として指定された。
- ・精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成では、新たに1名を採用して研修開始、別の1名の転籍を受け入れ総勢4名を育成中。
- ・研修実態の把握及び外部研修の適正な評価に関し、部門によって差があり、全体としての把握は未達成。
- ・ボランティアの活用は例年通り行った。
- ・OJTの充実を目指し、順調に実践している。

- ・公認心理師の活用について、新たに1名を採用したほか、鷹岡病院との2病院1部門教育・診療体制を試験的に構築し、スマートな整備がなされた。
- ・医師の働き方改革に向けた体制の整備に関する研修に参加した。具体的な整備は今後の課題。

施設設備の整備計画

(オ) 既存建物設備の維持

- ・計画的な修繕の実施について、建物劣化診断を受け、現在計画中である。
- ・施設管理の自立性を高め、建物・付属施設・構築物に感謝の念を持ち丁寧に扱うことを心掛けることを目標とし、事務部総務課、環境保全係りの努力を中心に全組織的な協力が得られている。
- ・薬剤課の移設を完了した。
- ・デイケアエリアの拡充について、コロナ禍が収まるまでは旧薬剤課を使用できるように整備した。
- ・旧喫煙室の再整備は検討段階にあり、未達成。

(カ) 人・環境にやさしい空間の創造

- ・光庭（中庭）の整備に関して大規模計画は保留し、手入れのみを実施している。
- ・待合・ラウンジ周りの展示物適正管理部門の明確化について、明確化はなされたが活動については課題を残す。
- ・節電のみならず、物品購入等に対して更なるコスト意識を持つことは、手順変更と数年来の意識付けにより向上した。

地域貢献活動

(キ) 公的機関への協力

- ・国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請応需について、例年通り行った。
- ・大学、看護学校等への講師派遣について、例年通り協力した。
- ・実習病院の受託（看護師、薬剤師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師、事務員等）について、看護師、作業療法士について受託した。
- ・他分野（企業等）との連携と貢献について、本年度の該当活動はなかった。
- ・新型コロナワクチン感染症の集団・職域接種への医師・看護師の派遣を行い地域に貢献した。

その他の活動

(ク) 情報管理の推進

- ・電子カルテシステムの機能向上に関して院内の努力は限界が大きく、業者対応とならざるを得ないため、目標の見直しを要す。
- ・人工知能（AI）活用の模索について、随時検討を進めた。
- ・オンライン環境の整備と充実についてコロナ禍に伴い整備が進んだ。

(ケ) 広報活動

- ・ホームページの適時更新及び活用は法人本部による要因が大きく課題が多い。

(コ) 適切な感染対策の継続

- ・感染対策についてはコロナ禍の影響もあり、多大な労力を費やして実施した。必要で正確な情報取得に注力したほか、地域の活動にも積極的に参加し、一部では主導的な役割を担った。

(サ) 特記事項

- ・伊豆山土石流災害に DPAT 先遣隊を複数回派遣し、県内の精神科災害支援活動において、支援・受援の両方の立場で参加、県内活動の主力の一躍を担う役割を果たした。

2. 大手町クリニック

基本情報

- ① 管理者 志澤 容一郎
- ②所在地 沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表 055-962-7371
- ③診療科 精神科・心療内科
- ④主な届け出受理事等 精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

医療活動

- ・外来・入院間での円滑で切れ目のない医療ケアの提供を目指し、双方で情報共有し、退院前カンファレンスへの参加等を通じて良好に実践した。
- ・安心して医療を受けられる・提供できる環境、体制の整備を目指し、新型コロナウイルス感染症への対応として適切な感染対策、電話再診の活用等にて実現した。

施設設備の整備計画

- ・診療環境の継続的な改善に関して既存設備の維持を心がけた。

地域貢献活動

- ・地域の精神保健活動への協力として、行政からの依頼業務への協力、職員派遣を継続した。
- ・新型コロナワクチン感染症の集団・職域接種への医師・看護師の派遣を行い地域に貢献した。

その他の活動

- ・適切な感染対策の継続として、検温、手指消毒、器物の消毒等を適切に実施した。

3. あたみ中央クリニック

基本情報

- ① 管理者 野田 寿恵
- ②所在地 熱海市田原本町9-1 熱海第一ビル2F 代表 0557-83-7707
- ③診療科 精神科・心療内科

医療活動

- (ア) 地域ニーズを担い、スマートな医療体制
- ・適切な外来診療数の達成(健全化計画:即応、軽症者の受け入、患者ニーズと寄り添う)については、積極的な新患受け入れをしたが、平均人数の増加に関しては来年度に持ち越しとなった。
 - ・感染症の流行状況に応じて、電話再診や長期処方などの収益減となる診療方法の調整を迅速に行うことについて、令和3年度上期延べ数が4,281件(昨年度上期4,018件)の内電話再診52件で、通常の診療で懸念されていた収益減には陥らなかった。スマートな医療体制については、適正人員の配置をし、業務の効率化を図った。
- (イ) 高齢者への治療ケアの、スキルアップと体制充実
- ・早期認知症の診断及びBPSDの薬物調整スキルアップを目指し、高齢者施設からの新患受け入れを積極的に行った。
 - ・高齢者施設スタッフと当院スタッフの連携については、電話や受診付き添い時に情報交換や助言が行えている。
- (ウ) 勉強会・研修会の実施、地域施設の見学
- ・勉強会を年に4回以上の実施を目指し、予定通り実施した。
 - ・社会復帰関連施設の見学については、新型コロナにより計画できなかった。

地域貢献活動

- (エ) 地域の精神保健活動への協力

- ・サポートセンターとの協働については、診断書や相談希望者についての協力を得ている。また、熱海・伊東地区支部地域支援協議会への出席をしている。

(オ) その他の活動

- ・適切な感染対策の継続として、検温、手指消毒、器物の消毒等を適切に実施した。

(カ) 特記事項

- ・看護職員がD P A T先遣隊の一員として土石流災害への支援を行うと共に、保健所と協力して災害後の専門的な医療支援を行った。

4. 訪問看護ステーションふじみ

- ①管理者 飯塚 香織
- ②所在地 沼津市中瀬町2 4 番 1 号

医療活動

- ・地域包括ケアシステムも踏まえた関係機関との連携強化を目指し、反省点はあるものの連携を強化した。
- ・自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護スキルの向上については、ケース共有、カンファレンスおよび勉強会を通し、課題は残るが、利用者とその家族等の思いを聴き、先を見据えながらの精神科訪問看護の看護を実践し向上を図った。

地域貢献活動

- ・地域の精神保健活動への協力として、圏域会議への出席、研修・看護学校講師、研修受け入れ等により地域精神保健活動へ協力した。

施設設備の整備計画

- ・サーバー、パソコン、プリンター、携帯電話類の計画的な更新を予定し、ウインケア説明会を実施した。

その他の活動

- ・適切な感染対策の継続について、必要な対策を十分に行いつつ訪問看護活動を実践した。

入院・退院及び在院患者数

	期首在院数	期中入院数	期中退院数	期末在院数	期中延べ数	期中1日当たり
沼津中央病院	241	659	666	234	89,846	246.2

入院・外来取扱患者数

(定床：270床)

	入院		外来		デイケア 作業療法 (外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	90,512	248.0	14,944	51.4	10,031	36.1	24,975	87.5
大手町クリニック			20,491	84.3	3,884	17.9	24,375	102.2
あたみ中央クリニック			8,493	35.4			8,493	35.4

	訪問看護		作業療法 (再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院			17,914	73.1
訪問看護ステーションふじみ	7,344	25.0		

【鷹岡病院グループ】

1. 概要

令和3年度は、「開かれた、選ばれる医療機関」として、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」「地域の医療機関・社会資源との更なる連携」「人材の育成・確保」「多様な精神疾患への対応」「災害対策の更なる推進」と定め、取り組んだ。

また、令和3年度は「病床稼働率を上げる」が最重要課題である事を職員に周知し、病床利用適正化プロジェクトチームや制限緩和検討チームを立ち上げ経常収支の改善に向け、職員一丸となり取り組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ①管理者：高木 啓 病床数 151床
- ②所在地：富士市天間1585番地 電話（代表）0545-71-3370
- ③診療科：精神科、心療内科
- ④主な届け出受理事：精神科救急入院料1、精神療養病棟入院料、精神科デイケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）

(2) 医療活動

- ① 精神科救急事業については例年どおり迅速な対応が図られている。
- ② 認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB等も交えて情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を本年度も受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。医療連絡協議会は昨年と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、WEBを用いた会議、関係機関から意見をアンケート形式で確認し書面開催も実施した。
- ③ 院内での事故、高リスクの事例に対して、医療事故の原因分析と有効な再発防止策を立案と確実な評価が可能となるよう体制の構築を図った。
- ④ 引き続き身体科救急医療機関である富士市立中央病院・富士宮市立病院や富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を図っている。
- ⑤ クリニカルパスについては運用に留まり、効果的な運用の検討を行った。
- ⑥ 長期入院患者に対してのクロザリルの導入を図った。
- ⑦ 昨年に続き摂食障害治療について浜松医科大学と情報共有を行った。
- ⑧ うつ・自殺対策の取組みとして、富士市、富士市医師会等と連携し紹介システムの再周知をし、また、県と連携し自殺未遂者支援ネットワークの構築を進めた。
- ⑨ 利用者参加型医療の推進を図った。
- ⑩ 病棟機能の明確化を図り、病状に合わせたスムーズな転棟を実施した。
- ⑪ 入院患者担当医師2人体制を実施した。
- ⑫ 行動制限最小化に向け、患者行動制限最小化委員会、管理運営会議等において検討を行った。

(3) 施設設備の整備計画

- ① A棟1階の空調機器の入替えを実施した。
- ② A棟屋上の防水工事を実施した。

- ③ 災害備蓄品（アルファ米、保存水等）の定期更新を実施した。
- (4) 地域貢献活動
- ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力、援助を行った。
 - ② 研修医（初期、後期）、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師・臨床心理士の実習生の受入れを行った。
 - ③ 公的機関、地域企業へのメンタルヘルス分野での協力を行った。
 - ④ 天間地区福祉推進事業への協力及び地域の住民、障害者施設、老人施設、福祉推進会参加の「天間ふれあいの日」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。
 - ⑤ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」連携・協力し、富士地区の法人活動を推進した。
 - ⑥ 富士市医師会及び職能団体事業へは、人的派遣等で協力を行った。
 - ⑦ 富士市地域防災医療計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。
- (5) その他の活動
- ① 「事業継続マニュアル」が修正を重ね完成した。また安否コール（災害安否確認システム）による情報伝達訓練の実施をした。
 - ② 働き方改革関連法に沿って取り組みの検討を継続し、有給休暇取得の奨励や、医師の日当直業務の回数等を軽減することに取り組んだ。
 - ③ 「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」の資質向上については、教育研修員会において、倫理・接遇に関連した院内研修を開催した。
 - ④ 実践報告及び研究に取り組める体制を整備し、情報発信できる人材の育成に関しては「ステップアップ活動」への取組等を通じ、成果を収めている。

3. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：石田 孜郎
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 電話（代表）0545-64-7655
- ③ 診療科：精神科、心療内科
- ④ 主な届け出受理等：精神科デイケア（小規模）、精神科ショートケア（小規模）
精神科訪問看護

(2) 医療活動

- ① 新患枠の見直しを行った。曜日と時間帯を固定した新患枠以外に、再診枠の空枠部分に臨機応変に新患を受け入れることにして、受診希望の患者の早期（可能な限り1ヶ月待ち以内の）受け入れを図った。新患診察の効率化を進める一助として受診時の問診票をメンタルクリニック・ホームページでチェックできるように整えた。一日平均の受診患者数は42.3人（昨年比増減なし。目標42.0人）。
- ② より緊密な多職種間の連携を図るため、毎月のクリニック会議での報・連・相とは別に、必要に応じて文書回覧での意見聴取や会議室のホワイトボードを利用しての情報交換を行った。
- ③ 訪問看護部門では内部研修として、訪問看護実施に際しての患者対応上の心がけや患者情報のまとめ方を見直した。その上で、患者満足度調査を行い、昨年度よりも向上していたことを確認した。
- ④ デイケアではコロナ禍で中断している料理教室に替わる行事として、オリンピック競技をリアルタイムでテレビ観賞して感動を共有した。感動シーンを利用者各人が発表するという活動も

取り入れ、各人の注目する競技の違いもあって楽しくディスカッションできた。

- ⑤ 発達障害診断を希望する新患ケースが増えており、心理部門での対応が急速に増えたが、デイケア観察や短期入院を組み込んで診断治療を行う C-PACK のケースはなかった。

(3) 施設設備の整備計画

- ① デイケア室内の喫煙室のリフォームは業者の出入りによるコロナウイルスの感染防止上、昨年同様に中止した。今後はコロナ禍の推移を見届けて実施予定である。
- ② 加湿・消臭装置の配備に関しては、コロナ感染対策としての「3密回避」の実施上、外来出入口の扉や天窓を開放している。そのため加湿にはかなりの機器設備が必要となることから見合わせた。扉・窓の開放で不快な臭いも当面は解消している。
- ③ 外来待合室のクロス張替えは予算的な面もあり次年度に持ち越した。汚れの目立つ部分に関しては自前で用意してあるクロスを用いて適宜張り替えた。

(4) その他の活動

- ① 接遇に関しては前回と同程度の患者側評価であったが、昨今の社会状況（医療者や医療機関に対する加害的行為）を鑑み、極力「不満評価」をゼロにする工夫と努力が必要であるとの認識で一致した。
- ② ISO は令和 1 年度で終了したが、学んだことを自ら実践することの必要性から、引き続き医療の質（(2) に記載）と患者満足度（(4) の①に記載）の向上に向けて務めた。
- ③ ホームページの充実に向けて更なる充実を図ることが必要である。部分的には(2)①に記載したが、患者さんにとって参考となる医療関連情報の連載的あるいはトピック的掲載が出来なかった。次年度への課題となる。
- ④ 他の医療機関からの転院受け入れは患者の状態・状況が診療情報提供書で分かっているので迅速に対応できた。また、他の医療機関患者のデイケアのみの利用も数件受け入れた。
- ⑤ 土曜午後（外来診療なし）の外来待合室区画の診療外有効活用は具体化できなかった。次年度からは午後外来診療を再開することになった。

入院・外来取扱患者数

	入院		外来		デイケア		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	40141	110.0	22,693	77.2	5,234	21.5	27,927	95.0
富士メンタルクリニック			12,438	42.3	3,168	13.0	15,606	53.1

訪問看護・作業療法取扱患者数

	訪問看護		作業療法	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	718	2.4	8,199	29.1
富士メンタルクリニック	108	0.4		

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概要

令和3年度、新型コロナウイルス感染症により変化する生活様式にも対応しながら、徹底した感染対策のもと次の事業を行った。

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。入院内訳は脳血管疾患 51%、骨折 40%、廃用症候群 9%であった。

療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対象例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。入院内訳は神経疾患 84%、その他 16%であった。

重点目標として掲げた経営の安定については、病床稼働率では 87.2%と 90%には届かなかったものの、発熱者対応やワクチン接種等により一定の収入が得られたことにより事業運営を安定させることができた。リハビリテーション実績指数や在宅復帰率については、施設基準を下回ることなく質の高い医療提供により維持することができた。感染対策については従来からの地域連携はもとより、院内においても可能な限り対策を実施し、職員も外出を控えるなど努力した結果、クラスターの発生もなく推移した。人材確保については、職種によっては課題があり、常に不足な状況も見られる。学会や研修会への参加については、Web を活用した研修などに潮流が変化したことにかえて参加し易くなったという利点も見られた。救護病院の体制整備については、検討をはじめたものの、病院の立地から脆弱な部分が多いため沼津市とも協議している。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹 病床数：106 床
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ③ 診療科：リハビリテーション科、内科、神経内科、消化器内科
- ④ 主な届出受理事等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

入院受け入れに際しては、待機期間短縮のため適時に入院判定会議を開催、入院中は、FIM 項目、ICF を基にしたアセスメントシートを活用したカンファレンス、パスシートの活用、多職種による情報共有などにより、具体的目標を明確にしたケア、1 ヶ月前までの退院日決定、方向性検討中事案の自宅退院に向けたカンファレンスなどを実施した。在宅復帰率は 84.2%と高い水準で推移した。退院前訪問はコロナ禍で控えることとなったが、写真や動画を用いた方法も取り入れ、円滑な在宅復帰につながった。病棟での稼働率は 86.8%と目標には届かず課題が残る。

② 医療療養病棟の機能改善

特定疾患等の医療区分 2 及び 3 の患者受入割合を維持しながら、回復期非対象でリハビリを必要としているケースや在宅からの患者受入についても入院判定会議の中で協議し、病院としての間口を広げることができた。

(3) 施設設備の整備

感染対策として、家族面談時の飛沫飛散防止のためのアクリル板を設置した。外構整備は未実施、病室家具の更新は次年度実施予定とした。病院建物全体の劣化診断を実施、今後の修繕計画の基礎とする。

(4) 地域貢献活動

沼津市が実施する新型コロナワクチン接種に協力し、集団接種や個別接種のほか高齢者施設に向いての接種も行った。その他、救急当番医への協力、大学や専門学校等の実習受託、セラピストや看護師養成にも協力した。また、前年度からの静岡県が行う地域リハビリテーション強化推進事業において講演会を実施し、地域リハビリテーション支援センターとしての機能を果たした。

(5) その他の活動

人材確保については常に課題として取り組んでいるが十分な結果は得られていない。特に医師1名の確保は急務となっており、未だ採用には至っていない。働き方改革については課題多く、医師の働き方改革を進める上で、客観的な方法による勤怠管理は急務となっている。災害対策については、非常食等の更新を行なったが、マニュアル更新などさらに継続して実効的な対策を進めていく。電子カルテの導入については、ようやく国のプラットフォームが示されたため、次年度より院内の総合的なデジタル化の中で地域連携も含め、利活用できるシステムの導入検討を進めていく。

3. 訪問看護ステーションうしづせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

24時間の緊急対応を維持し、医療機関や在宅医、その他サービス事業所との連携により、在宅医療の推進に努めた。高齢者だけでなく小児の訪問看護も実施し、目標数も達成することができた。

(3) 地域貢献活動

3校の看護学校実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

入退院及び在院患者数 (定床：106床)

入院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1日当(人/日)
医療	94	232	232	94	33,760	92.5

外来取扱患者数

外 来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)	期中延	1日当(人/日)
7,759	31.7	5,155	16.8	0	0.0

訪問看護ステーションうしづせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1日当(人/日)
医療	2,074	6.7
介護	4,160	13.4
計	6,234	20.1

VI. 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

令和3年度は、(1) 事務処理の効率化及び能力アップ、(2) 適正な人員配置の見直しと人件費率の改善、(3) 経費削減の3項目を重点目標に掲げ、コロナ禍が続く厳しい経営環境の中で業績改善に取り組んできた。

法人全体の最重要課題だった「経営黒字化ための収益力の強化、事業計画の達成」については、6期振りの黒字達成とともに予算を大幅に上回ることができた。特に低迷していた鷹岡病院の業績回復は顕著で、職員への事業計画・予算達成に対する意識が浸透し、職員全員が業績改善に対する意欲を共有できたことが要因である。その他の病院・事業所においても、職員が一致協力して業績伸展に取り組んだ成果が表れている。本部として、各事業所に対し「経営の見える化」を行い、情報を共有し、PDCAサイクルを回すことを心掛けたことが、業績改善の一助になったと自負している。

福祉サービス事業部門も、新型コロナウイルス感染による先の読めない状況が続いたが、各事業所の運営の継続は勿論、虐待防止や事例から支援を学ぶ研修等、小集団やリモートを使う等感染防止に対する工夫から効率的で分かりやすい職員研修を行う事が出来たり、医療機関との連携について専門職が横断的に取り組む実践を行ったりと、今の業務の中から工夫や広がりを見つけた結果、人材育成に成果のあった1年となった。

利用者支援についても特に入院から地域生活への移行支援は昨年度以上に種別を超えて協働して行う事が出来た。ただし、地域には障害福祉サービスの資源が増加し、事業部内でも年々厳しい運営状況となっている事業所もある。中長期で目標を立て、先を見据えた事業展開を事業部全体として行っていきたい。

2. 本部事務局

(1) 事務処理の効率化及び能力アップ

長年の懸案事項である「勤怠管理システム」の導入については、「医師の働き方改革」にも関連し情報収集にとどまり、次年度の課題となっている。

併せて、ホームページのリニューアルについては、スマホ対応や更新における特殊技能が不要なCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）の導入を検討し、令和4年度にはリニューアルの予定である。

(2) 適正な人員配置の見直しと人件費率の改善

事務局として、本部と支部との良好な人間関係を図りつつ、本部と病院間での事務職員の人事交流を積極的進めた。次年度についても引き続き人事交流を推進していきたい。

人件費率の改善については、入院収入を中心に医業収益の増加により令和2年度は76.3%だった人件費率は、令和3年度は73.8%と2.5%の改善が実現できた。

(3) 経費削減

物品購入の廉価な物への代替えや見積合わせの徹底により、コスト意識が醸成されたことで物件費の圧縮が図れた。今後は、物品の共同購入や共同化を推し進めていきたい。

3. 社会復帰事業部

1) 相談支援事業

引き続き各市町からの委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・ゆめワーク・ほっと・いとう・ひまりの5事業所で実施。令和3年4月より指定一般（地域移行支援）については報酬改定等の制度の変化に合わせる形で事業を一元化した。これにより令和1年より正式雇

用となっているピアスタッフとの個別支援における協働について共通の意識を持ち、より発展的に法人内事業所全体で取り組むひとつの契機とした。計画相談を中心とした個別支援においては、昨年度に続きコロナ禍の影響を受けながらも各自工夫をし、関係機関と連携をしながら歩みを止めることなく取り組んだ。基幹相談支援センターも含めた各市町単位での相談支援体制の整備については、自立支援協議会等へ参画しその活動を通して地域の実情に合わせて取り組んだ。今後も継続的な課題となる為、法人として求められる役割をしっかりと把握し来年度以降も引き続き各相談支援専門員が主体的な意識を持って取り組んでいきたい。

2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターいとうの2箇所を実施。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の懸念から時間短縮、利用者の制限等に対応することもあり全体的に利用者数は減少となった。ただ、両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、清掃活動などの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組んできた。また、今年度は社会復帰事業部内の就労支援事業所、地域活動支援センター等の合同企画として、文化祭「秋ふく祭」を開催し、地域活動支援センターの利用者も各々絵や書道などの作品を制作する。コロナ禍での制限はありながらも一つのイベントに向けて利用者が一丸となれたように感じる。

今後も地域行事への参加やピア活動への協力、ボランティア育成等、地域に開かれたセンター運営に努めていく。

3) 共同生活援助事業

グループホームコーポ狩野・はまゆう寮・カーサ岡宮・ふじみ・ふじみⅡの5か所を実施。今年度も新型コロナウイルスの影響で、利用者への外出泊の自粛・家族への面会制限など、例年と違う対応を昨年度に引き続き行った。良くも悪くもコロナ禍に慣れてきてしまったことや、制限が長く続くことへのストレスなどからどう対応をしていくべきか考えさせられる場面も多かったが、地域の他事業所とも情報共有しながら適切な支援ができるように努めた。

今後も生活の場として安心できる環境づくり、地域や利用者のニーズに合わせた支援を行えるようにスタッフの資質向上にも努めていく。

4) 就労支援事業

東部圏域（沼津・三島・伊豆の国）3カ所で就労継続支援B型事業を実施。伊豆市・伊豆の国市を筆頭にこれまで同様各地域に様々な就労支援事業所が開所され、その中で選ばれる事業所となるよう、地域や利用者のニーズを把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。昨年同様、今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、授産製品の対面販売の自粛や店内飲食の自粛、イベント販売の中止等の対応を余儀なくされた。テイクアウトや配達対応、オンライン販売等新たな販売スタイルも徐々に定着してきたところであり、引き続き販路拡大を模索していく。また、日中の居場所としての機能も果たしていることから、感染防止対策を徹底し事業継続に努めた。

今後も、一般就労への支援や利用者・家族の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者には選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

地域貢献活動

- 1) 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして駿東田方圏域自立支援協議会運営に貢献した。
- 2) 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市、長泉町地域自立支援協議会の運営に協力した。
- 3) 沼津市、伊豆の国市から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- 4) 伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。

相談・訪問件数（延件数）

（令和3年4月～令和4年3月）

	来所	電話	訪問	その他	合計
ゆめワーク	405	2,929	1,353	4,154	8,841
中瀬	139	1,686	836	2,920	5,581
ひまり	131	494	648	1,642	2,915
いとう	673	3,848	702	2,846	8,069
ほっと	56	1,628	415	1,966	4,065
合計	1,404	10,585	3,954	13,528	29,471

地域活動支援利用状況（延人数）

（令和3年4月～令和4年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめ	101	78	113	83	71	80	88	94	114	106	101	115	1,144
いとう	184	160	184	148	118	122	161	136	147	138	111	165	1,774
合計	285	238	297	231	189	202	249	230	261	244	212	280	2,918

グループホーム利用状況

（令和4年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町											合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	静岡	熱海	伊豆	長泉	
ふじみ	11	5	1		2								8
ふじみⅡ	5	1						1					2
カーサ岡の宮	10		4	1			1					1	7
はまゆう	9		2	1		2	2			1		1	9

グループホームコーポ狩野利用状況

（令和3年4月～令和4年3月）

施設名	定員	期首入所者数	新規入所者数	退所者数	期末入所者数
コーポ狩野	20	17	1	0	18

就労支援事業所かのん利用状況

（令和3年4月～令和4年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	46	46	46	47	48	51	51	51	50	52	53	53	
開所日数	24	22	25	24	21	23	25	23	23	22	21	25	278
実人数	41	39	40	41	43	47	48	47	48	50	51	52	
延人数	480	412	489	442	385	481	530	525	521	506	501	571	5,843
1日平均	20.0	18.7	19.6	18.4	18.3	20.9	21.2	22.8	22.7	23.0	23.9	22.8	21.1

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況

（令和3年4月～令和4年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	34	34	35	35	36	36	36	37	38	38	39	38	
開所日数	25	23	26	25	23	24	26	24	25	23	22	26	292
実人数	24	23	24	24	24	26	27	27	27	27	28	29	
延人数	303	260	329	287	260	300	343	321	343	318	298	365	3,727
1日平均	12.1	11.3	12.7	11.5	11.3	12.5	13.2	13.4	13.7	13.8	13.5	14.0	12.8

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(令和3年4月～令和4年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	27	25	24	24	24	26	25	25	25	25	25	23	
開所日数	21	18	22	20	18	20	21	20	21	19	18	22	240
実人数	24	20	20	20	20	22	22	20	20	19	18	17	
延人数	299	226	252	219	209	250	269	244	236	213	209	241	2,867
1日平均	14.2	12.6	11.5	11.0	11.6	12.5	12.8	12.2	11.2	11.2	11.6	11.0	11.9

以上

Ⅶ. 地域貢献活動

〔1〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R3. 5. 14	オンライン配信	『カルテ情報の将来性 ～レジストリと臨床指標の活用経験から～』	杉山直也	大塚デジタルヘルス株式会社
7. 15	リモート配信(横浜市)	『アミロイドPET20例の使用経験』	野口信彦	横浜認知症研究会/エーザイ株式会社
8. 6	Web Seminar	『精神科救急病棟でのピアスタッフを含めた未来志向の支援と薬物治療の工夫』	長谷川花	大塚製薬株式会社
8. 25	オンライン開催	『「死にたいきもち」に対して私たちができること」～救命救急センターに常駐した精神科医の立場から～』	日野耕介	横浜市健康福祉局こころの健康相談センター
9. 17	オンライン開催	今後の日本精神科救急学会の動向	杉山直也	大日本住友製薬株式会社
10. 12	静岡福祉大学	精神科病院におけるPSWの業務と実習	澤野文彦	静岡福祉大学
11. 30	Web 発信	精神障害者の退院後支援に関する研修	澤野文彦	栃木県精神科医療・精神保健福祉従事者研修会
12. 10	オンライン研修	精神障害者の障害特性と支援技法	澤野文彦	浜松市精神保健福祉センター
R4. 1. 12	Web 形式	『向精神薬による便秘』	野口信彦	EAファーマ株式会社
2. 16	Web 講演会	『精神科救急医療におけるリスクマネジメントについて』	杉山直也	大日本住友製薬株式会社
3. 15	Web 講演会	統合失調症薬物治療の治療課題	杉山直也	大日本住友製薬株式会社

鷹岡病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R3. 6. 5	静岡県男女共同参画センターあざれあ	保健・医療・福祉サービス提供システムと多職種との連携	山口雅弘	一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会
10. 16	伝法まちづくりセンター	富士市男女共同参画推進事業「“コロナの時代”に探ってみよう～人と人との関わり～」	久保伸年	フジ・カウンセリングの会、富士市多文化・男女共同参画課
12. 23	富士総合庁舎	精神疾患を持つ方との関わり方	松井淳	富士健康福祉センター
R4. 1. 26	県立沼津特別支援学校愛鷹分校	成年後見制度について	山口雅弘	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
2. 24	WEB 開催	精神障害者の就労支援～医療との連携について考える～	山口雅弘 小山隆太	浜松 NPO ネットワークセンター
2. 28	静岡市中央福祉センター	精神障がいについての理解と援助の方法について	山口雅弘	静岡市成年後見支援センター
3. 10	富士市消防防災庁舎	富士市こころの健康づくり講演会「不安に向き合うためのポイント」	久保伸年	富士市福祉子ども部障害福祉課

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R3. 8. 2	ファルマバレーセンター	当院リハビリテーション課における新型コロナウイルス感染症対策	西 島 勇	静岡県理学療法士会駿東支部
9. 9	サンウェルぬまづ	防ごうオーラルフレイル保とう認知機能	渡 邊 美 礼	沼津市長寿福祉課
11. 24	ピット 28+Web	沼津市におけるリハビリテーション専門職の活用の紹介～フレイル予防事業を通じて～	リハビリテーション 課	静岡県東部保健所
R4. 3. 10	サンウェルぬまづ	健康長寿のための身体作り	山 田 純 平	沼津市長寿福祉課

訪問看護ステーションうしぶせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R4. 1. 26	サンウェルぬまづ 2階 大会議室	フレイル予防の体操等	鈴 木 奏 恵	沼津市長寿福祉課 手話サークル若葉友の会

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R3. 6. 1	オンライン	当事者の体験談と相談支援事業所の活動報告	鈴 木 伸 二 石 川 淳 山 崎 将 展	静岡県精神保健福祉センター
11. 12	オンライン	1. 駿東田方圏域における地域移行支援個別給付サービスの事例報告 2. 市町における精神障害にも対応した包括ケアシステムの取組について	鈴 木 伸 二 牛 島 聖 美	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会
11. 17	伊東市生涯学習センター	伊東市成年後見制度市民後見人養成講座	秋 津 崇 史	伊東市社会福祉協議会
R4. 2. 22	道の駅 開国下田みなと 会議室	ピアサポートにおける研修	石 川 淳 山 崎 将 展	賀茂障害者就業・生活支援センター

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼 津 中 央 病 院	地方公務員災害補償基金静岡県支部	杉 山 直 也
	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
	〃	長 谷 川 花
	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
	名古屋国税局	坂 晶
	(福) 静香会 悠雲寮	浅 倉 博 幸
	〃	伊 藤 慶
	(福) 野菊寮	浅 倉 博 幸
	〃	伊 藤 慶
	(福) 静香会 みのり工房	浅 倉 博 幸
〃	伊 藤 慶	

	(福) 宏寿会 遊法苑 (福) 春風会 高尾園	伊 藤 慶 道 部 晃
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	静岡県 静岡県警察本部 沼津工業高等専門学校	志 澤 容 一 郎 志 澤 容 一 郎 志 澤 容 一 郎
鷹 岡 病 院	(株)東芝キャリア (株)ジーエイチクラフト 三生医薬(株)	高 木 啓 高 木 啓 高 木 啓
沼津リハビリテーション病院	(福) 信愛会 ぬまづホーム (福) 信愛会 和みの郷	杉 山 元 信 杉 山 元 信

〔3〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	静岡県立大学 看護学部 日本福祉大学 社会福祉学部 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科 国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 順天堂大学 保健看護学部 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 御殿場市医師会附属御殿場看護学校 東北福祉看護学校 日本精神科看護協会
鷹 岡 病 院	静岡大学大学院 人文社会科学部 臨床人間科学専攻 静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学 聖徳大学通信教育部 心理・福祉学部 心理学科 日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 専門学校 富士リハビリテーション大学校 作業療法学科 富士市立看護専門学校 静岡県立看護専門学校 第2学科
沼津リハビリテーション病院	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 常葉大学 保健医療学部 作業療法学科 常葉大学 健康科学部 静岡理学療法学科 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 健康科学大学 健康科学部 理学療法学科 愛知淑徳大学 保健医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻 専門学校 白寿医療学院 理学療法学科 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科・作業療法学科 静岡医療科学専門大学校 理学療法学科 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校

訪問看護ステーションうしぶせ	静岡県立看護専門学校 沼津市立看護専門学校 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県訪問看護ステーション協議会（ケアマネージャー研修）
社会復帰事業部	静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科 順天堂大学 保健看護学部 御殿場看護学校 静岡医療センター附属静岡看護学校

〔4〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼 津 中 央 病 院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 御殿場市医師会附属御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	鈴木 和 野口 信彦 大原 佑生 葛城 芳弘 麻場 英聖 市川 容代 山田 まゆみ 飯塚 香織 牛島 一成 飯塚 香織 今井 亮太 麻場 英聖
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹 岡 病 院	神奈川県立保健福祉大学 福井県立大学 静岡英和学院大学 健康科学大学 長崎国際大学・長崎純心大学 日本福祉大学 富士市立看護専門学校 〃 JA 静岡厚生連するが看護専門学校	水野 拓二 水野 拓二 久保 伸年 水野 拓二 山口 雅弘 水野 拓二 山口 雅弘 曾根 満寿代 渡辺 睦子、 久保 伸年 曾根 満寿代
沼津リハビリテーション病院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 専門学校 中央医療健康大学校 理学療法学科 専門学校 白寿医療学院 理学療法学科	豊永 美幸 西島 勇 西島 勇
社会復帰事業部	沼津市立看護専門学校	青木 大輔 山下 圭美

〔5〕 関連諸団体の活動（管理者のみ）

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼 津 中 央 病 院	日本精神科救急学会	理 事 長	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 医療政策委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 教育研修委員会	委 員	杉 山 直 也
	日本精神科救急学会 認定医制度委員会	委 員	杉 山 直 也

	日本精神科病院協会 政策委員会 一般社団法人 日本自殺予防学会 日本医療評価機構 認定病院患者安全推進協議会 院内自殺の予防と事後対応に関する検討会 静岡県精神科病院協会 静岡県精神保健福祉協会 沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会	委 員 理 事 委 員 理 事 監 事 評 議 員 委 員	杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也
鷹岡病院	全国精神保健福祉連絡協議会 静岡県精神保健福祉協会 静岡県精神科病院協会 しずおか精神障害者スポーツ推進協議会 静岡県障害者スポーツ大会 静岡県障害者スポーツ協会 認知症の人と家族の会静岡支部 富士市医師会 ユニバーサル就労を拓げる会	理 事 会 長 副 会 長 会 長 副 会 長 評 議 員 顧 問 監 事 顧 問	石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 高木啓 高木啓 高木啓

[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
横浜市立大学	客員教授	横浜市立大学	杉山直也
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部	客員研究員	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	杉山直也
D P A T 運営協議会	委 員	厚生労働省委託業務 D P A T 事務局	杉山直也
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉班	杉山直也
静岡県精神科救急医療システム 連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉室	杉山直也
措置入院適正運営協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉班	杉山直也
静岡 DPAT 連絡協議会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉班	杉山直也
駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	委 員	駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	杉山直也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委 員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	杉山直也
沼津市自殺対策行動計画策定懇話会	委 員	沼津市健康づくり課 (保健センター)	杉山直也
清水町自殺対策推進連絡協議会	会 長 ・ 委 員	清水町健康福祉課	杉山直也
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	沼津警察署	長谷川花
静岡県警察本部職場復帰相談医	委 員	静岡県警察本部	志澤容一郎
裾野老人ホーム入所判定委員会	委 員	裾野市福祉事務所 社会福祉室	坂 晶
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	委 員	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆市福祉事務所	坂 晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委 員	伊豆の国市福祉事務所	坂 晶
小山町老人ホーム入所判定部会	委 員	小山町福祉事務所	坂 晶

函南町老人ホーム入所判定部会	委 員	函南町福祉事務所	坂 晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委 員	長泉町福祉事務所	坂 晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委 員	清水町福祉事務所	坂 晶
沼津市障害支援区分認定委員会	委 員	沼津市	澤 野 文 彦
静岡県自殺対策連絡協議会	委 員	静岡県	澤 野 文 彦
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	久 野 満 津 代
静岡県自立支援協議会地域移行部会	理 事	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	澤 野 文 彦
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会		沼津市	澤 野 文 彦
静岡県デイケア連絡協議会		静岡県	小 野 剛

鷹岡病院

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
〃	〃	〃	高 木 啓
静岡県精神保健福祉審議会	会 長	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石 田 多 嘉 子
第三次富士市DV対策基本計画策定懇話会	委 員	富士市福祉こども部生活支援課	石 田 多 嘉 子
富士市生活保護法審査会	委 員	富士市福祉こども部福祉総務課	石 田 多 嘉 子
静岡県摂食障害対策推進協議会	協 議 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県DPAT連絡協議会	医 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高 木 啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	委 員	静岡保護観察所	高 木 啓
静岡地方労災医員	委 員	静岡労働局	高 木 啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委 員	静岡県精神保健福祉センター	高 木 啓
富士市老人ホーム入所判定委員会	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市認知症施策推進検討委員会	副 委 員 長	富士市保健部介護保険課	高 木 啓
〃	委 員	〃	水 野 拓 二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市差別解消支援協議会	委 員	富士市福祉こども部障害福祉課	高 木 啓
富士市自殺対策推進会議	会 長	富士市健康政策課	高 木 啓
〃	委 員	〃	久 保 伸 年
富士宮市認知症医療研究会	委 員	富士宮市福祉総合相談課	高 木 啓
静岡市精神医療審査会	委 員	静岡市こころの健康センター	高 木 啓
富士圏域自立支援協議会	構 成 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委 員	富士健康福祉センター	高 木 啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士圏域措置入院適正運営協議会	委 員	富士保健所	高 木 啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委 員	富士市教育委員会	高 木 啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委 員	富士市立中央病院	高 木 啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委 員	富士宮市立病院	高 木 啓
静岡県精神医療審査会	委 員	静岡県精神保健福祉センター	曾 根 満 寿 代
〃	〃	〃	川 島 茉 己
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委 員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	曾 根 満 寿 代
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部 会 長	富士健康福祉センター	曾 根 満 寿 代
〃	構 成 員	〃	山 口 雅 弘
〃	〃	〃	川 口 恭 子
富士警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委 員	富士警察署	久 保 伸 年
富士市障害支援区分認定審査会	委 員	富士市福祉こども部福祉総務課	山 口 雅 弘
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委 員	富士宮市介護障害支援課	山 口 雅 弘

沼津リハビリテーション病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	長友秀樹
〃	〃	〃	岩本和也
沼津市フレイル予防事業	フレイルトレーナー	沼津市長寿福祉課	西島勇
沼津市 地域ケア個別会議	リハビリテーション専門職代表	沼津市長寿福祉課	西島勇
沼津市障害支援区分判定審査会	判定審査委員	沼津市障害福祉課	鈴木亮太

訪問看護ステーションうしぶせ

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市ほか3市町介護認定審査会	認定審査委員	沼津市介護保険課	松川香織
〃	〃	〃	綿引里美
静岡県訪問看護推進協議会	委員	静岡県健康福祉部健康局健康増進課	松川香織
駿東田方圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委員	静岡県東部健康福祉センター福祉課	松川香織

社会復帰事業部

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
沼津市障害者自立支援協議会	副会長	沼津市	牛島聖美
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木伸二
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調査員	伊豆の国市	池田友美
			小山千菜美
			室山美希
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤治子
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員	伊豆の国市	青木大輔
	運営委員		
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆市地域自立支援協議会	副会長	伊豆市	青木大輔
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部会長	富士市	田尻ゆき
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	鈴木伸二
裾野市障害支援区分判定審査会	審査委員	裾野市	杉山智子
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部健康福祉センター	鈴木伸二

〔7〕 受託事業

所属	受託事業名
鷹岡病院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 静岡県精神障害者地域生活支援訪問事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
沼津リハビリテーション病院	生活機能向上連携（愛の家）理学療法士派遣 駿東田方地域リハビリテーション強化推進事業 支援センター
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和4年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	14		5	2		-1	16		4
看護職	113	5	11	-2	1	3	111	6	14
介護職	28	6	1	-1			27	6	1
医療技術職	23		3	1			24		3
福祉職	11					1	11		1
事務職	16	2	1	-1			15	2	1
労務職	18		3	-1			17		3
合計	223	13	24	-2	1	3	221	14	27

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	4	1	1	1	-1	1	5		2
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	2			1			3		
合計	9	1	1	2	-1	1	11		2

あたま中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	2			-1			1		
事務職	1						1		
合計	4			-1			3		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	9	1					9	1	
合計	9	1					9	1	

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	7	1		1			8	1	
看護職	45	4	12	-1		2	44	4	14
介護職	21	2	3	-3		-1	18	2	2
医療技術職	16		4	1		-1	17		3
福祉職	12			-1			11		
事務職	12			-1		1	11		1
労務職	12		2			1	12		3
合 計	125	7	21	-4		2	121	7	23

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1		1	-1	1			1	1
看護職	3			-1	1		2	1	
医療技術職	2						2		
事務職	3			1			4		
合 計	9		1	-1	2		8	2	1

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	3		16			3	3		19
看護職	40	2	10	-1		-1	39	2	9
介護職	36		6	-2	1	-1	34	1	5
医療技術職	52		9	-3		-2	49		7
福祉職	6			-1			5		
事務職	11		1	1			12		1
労務職	6		8	1		-3	7		5
合 計	154	2	50	-5	1	-4	149	3	46

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	5		1				5		1
医療技術職	1						1		
合 計	6		1				6		1

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	5		3	-2			3		3
合 計	5		3	-2			3		3

サポートセンターいとう

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			3			-1			2
福祉職	3						3		
合 計	3		3			-1	3		2

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4		1	1			5		1
労務職			1						1
合 計	4		2	1			5		2

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合 計	4						4		

サポートセンターひまり

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	3						3		
合 計	3						3		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
事務職		1						1	
合 計		2						2	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職						1			1
福祉職			1						1
労務職			1			-1			
合 計			2						2

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
合 計			1						1

グループホームふじみⅡ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
合計			1						1

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職		2	2					2	2
福祉職	2						2		
合計	2	2	3				2	2	3

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1			-1			
福祉職	4		1			1	4		2
労務職			4						4
合計	4		6				4		6

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
介護職		1	3			-1		1	2
福祉職	2		1			1	2		2
合計	2	1	5				2	1	5

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	2		1				2		1
事務職			1						1
労務職			4			-2			2
合計	2		7			-2	2		5

本部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1						1		
事務職	10	1		-2	-1	1	8		1
労務職	1			-1	1			1	
合計	12	1		-3		1	9	1	1

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	27	1	22	2	1	2	29	2	24
看護職	221	13	38	-5	1	5	216	14	43
介護職	85	12	21	-6	1	-4	79	13	17
医療技術職	95		16	-1		-3	94		13
福祉職	60		8	-3		3	57		11
事務職	55	4	3	-1	-1	2	54	3	5
労務職	37		23	-1	1	-5	36	1	18
合 計	580	30	131	-15	3		565	33	131

※管理者含む

以上